



和敬会だより

第128号

発行所
医療法人社団 和敬会
谷野 呉山 病院
富山市北代5200
<http://wakeikai.com>
発行人
理事長 谷野 亮爾



発行日 令和元年6月1日

祝 初優勝

大相撲 令和元年 夏場所



平成31年2月13日、朝乃山関が慰問に訪れてくれました

医療法人和敬会

基本理念

「希望に満ちた人生の回復を目指して私たちはあなたと共にある」

基本方針

- ・ 専門職がチームで関わり、あなたの価値観を大切に医療を提供します。
 - ・ 常に研鑽に努め、安全で質の高い医療を提供します。
 - ・ 広く情報公開に努め、あなたと共に考える医療を提供します。
 - ・ 精神科救急体制の充実や社会資源との連携を図り、地域に根ざした医療を提供します。
 - ・ 環境に配慮し、地球にやさしい医療を提供します。
 - ・ 精神疾患に対する偏見の払拭、権利擁護に努め、あなたが自らの強みを発揮できる社会づくりを推進します。
 - ・ 人材育成に努め、当院に勤務する職員が自らの強みを発揮できる職場づくりを推進します。
- 私たちは基本理念を胸に抱き、健全な病院経営の下で以上の基本方針を実践します。

職員募集専用サイト
開設しました



富山県依存症治療拠点機関に選定されました

院長 谷野 亮一郎



平素より皆様には当法人へのご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成三十一年三月、谷野呉山病院は富山県依存症専門医療機関および富山県依存症治療拠点機関に選定されました。

当院でも長年アルコール依存症治療に従事していただいた草野亮先生の後を引き継ぎ、「当院から依存症治療の火を消すま

い」と思い続けて参りました。しかし、当院の依存症外来は週一回の半日のみです。患者さまからの受診希望や地域の先生方からの紹介になかなかタイムリーに答えられないのが現状です。もちろん選定基準をクリアしたわけですが、相對評価で当院が選定されたところもあると思います。それだけ富山県内に依存症専門医療機関が少ないのです。

我が国に百九万人（富山県九千二百人）いるとされる患者のうち、四〜五%しか治療につながつていないアルコール依存症者の治療連携体制の整備はオール富山で取り組むべき課題です。診察の時、私はアルコール依存症の患者さんに「飲酒運転はしていますか？」と問います。九割程度の方が「していません」と答えられます（そのうち、本人の後ろで同伴した家族の方が首を横に振っているのが六割程度でしょうか）。

そこで私は「残念ながらすでにあなたは飲酒運転をしています」と言います。「魂」という運転手が「肉体」という乗り物に乗って「人生」という道を歩んでいる。「魂」が飲酒運転するもんだから、あなたの「肉体」はあっちこちぶつけてかなりガタがきています」といった話をします。そして患者さんにとって飲酒が苦痛・苦悩を緩和するための自己治療的な側面があることに共感しつつ、「健康と安全に配慮した『魂』の飲酒運転が可能か」「山あり谷ありの人生。飲酒すると一時は山も谷も見えなくなるけど、飲酒しっぱなしで山や谷を越えられるかしら」といったことを患者さんやその家族と話合います。断酒や節酒を人生の目的にするのではありません。よりよい人生を送るための手段にするのです。

最近、私の愛するアーティストがコカイン使用で逮捕・起訴されました。

私の中には「薬物依存症の回復にも寄与したい」との思いが湧々と湧き上がっているのですが、現状、当院は「アルコール依存症」のみの依存症専門医療機関および治療拠点機関であることを申し添えます。

院長が大会長を務めた公益社団法人日本精神科病院協会第7回日本精神科医学会学術大会に当院から8演題を発表しました。

第7回日本精神科医学会学術大会 発表者一覧

氏名	所属	テーマ
村上 聡	31病棟	誤薬予防に関する取り組みについての報告
板東 冬奈	メンタルケア病棟	接遇の改善を目指し意識を向上させる取り組み ～新人看護師の気づきから始める活動～
谷口 洋平	薬剤部	精神科病院外来通院患者における残薬実態調査
宮田南美江	栄養課	コラーゲンペプチド含有食品摂取による皮膚創傷の経過
大島 美保	デイケアのぞみ	デイケア新プログラム「健康道場」導入経過と効果について ～精神疾患がおよぼす生活習慣への影響～
舟上 恵美	生活訓練センター	地域移行型グループホームにおける退居支援の取り組み
堀口 明美	コ・メディカル課	作業データに基づいた作業療法での関わりにおける治療効果について ～実施者の転帰から～
浜守 大樹	コ・メディカル課	医療保護入院者退院支援委員会が急性期治療病棟の入院者にもたらした変化について



遠藤謙二実行委員長と一緒に会場入り口で



アルクマと一緒に

第三十八回院内学会 特別講演会 「大規模災害の備え〜熊本地震の体験から〜」



今年度は日本精神科医学会との兼ね合いで例年よりも時期が遅く、平成三十一年二月二十四日に院内学会を開催しました。第三十八回目を迎える今年のテーマは「その時 私たちは、多職種でのりきる危機対応〜」でした。

午前の研究発表は、院内から十二演題の発表と質疑応答および講評がありました。同じ法人に居ながらも普段はなかなかわからない、他部門・他職種が取り組んでいる状況や課題など、日々の医療活動を知ることができました。

午後からの特別講演では、益城病院の犬飼邦明理事長と金子元子看護部長を講師としてお迎えし、「大規模災害の備え〜熊本地震の体験から〜」と題して講演をしていただきました。

講演の中で、停電で電話やTVなども見れず、情報を得る手段がなくて孤立しデマも横行したなか、対策本部が的確な判断をすることの難しさがあつたようです。甚大な被害を受けながら、今は

将来を見据えた新病院の建設などに取り組んでいることも話されました。

今回の院内学会が開催できましたのは、学会委員のスタッフや、当日の応援職員の皆様、また日々の業務の合間をぬって研究し、発表していただいた演者の方々の協力があつたからだ、と感謝しています。ありがとうございます。

運営委員長 山本 浩子

第38回院内学会発表者一覧

氏名	所属	テーマ
岡田 美紀	32病棟	爪白癬外用薬の効果と看護ケアについての考察
米田 拓由	メンタルケア病棟	人生の最終段階における医療 ～看取りの看護を振り返る～
高野健太郎	クライシスケア病棟	自閉的な生活からの脱却を目指して
☆谷口 園子	コ・メディカル課	長期隔離室処遇を要した中学生女子への介入
伊勢 美鈴	31病棟	誤嚥性肺炎の取り組み
松田 朱美	33病棟	看護記録監査結果からみた看護記録の現状と今後の課題
森田万奈美	コ・メディカル課	メンタルケア病棟における長期入院者の現状から今後の家族支援を考える
☆大島 美保	デイケアのぞみ	デイケア新プログラム「健康道場」導入後の経過と効果について
高木 佳文	経理課	和敬会における補助金等を活用した設備投資
木下 祐樹	ストレスケア病棟	ストレスケア病棟の看護スタッフのやりがいに関する実態調査
高嶋 郁子	谷野医院	谷野医院の今後を考える ～多機能型精神科診療所としての役割と課題～
宮西 知宏	医局	EMDRを用いたトラウマ治療により過敏な自責感が消失した一例

☆優秀論文賞 受賞者

認知症疾患医療センター 研修会 「認知症の理解と連携」



平成三十年八月三十一日、講師に田口真源先生（医療法人社団静風会 大垣病院 理事長・院長 日本精神科病院協会 理事）をお招きし、「認知症の理解と連携」と題した講演を開催しました。

認知症状の捉え方や早期相談・受診の視点から認知症の前駆症状の可能性のある障害、精神症状など疾病理解と、関係機関が連携し対象者一人一人に応じた生活を支える仕組み作り、関係機関の役割などについて事例を通して講義をいただきました。

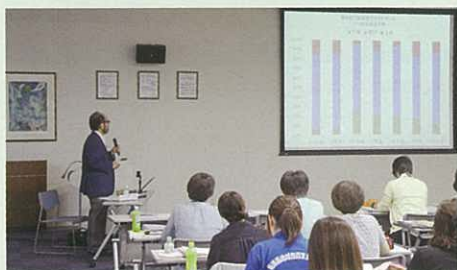
連携については、日々の実践を地域の支援者間で相談しやすい関係性があること、本人と家族を中心に

として支援者が情報共有し状況理解を図る一つの手段としてオレンジ手帳を利用し、実践の中で内容をより生活に即したものに變更し活用していることが、タイムリーな介護、医療の介入に繋がっているとの事でした。

先生の講演を拝聴し、地域における当センターの実践や役割を考える貴重な機会をいただきました。事例を通して連携について更に理解を深め、連携体制の強化に努めたいと感じました。

先生にはお忙しい中、講演をいただきありがとうございます。

精神保健福祉士 石倉 直美



「老いを迎える」といふこと 「老いを迎える」といふこと

「老いを迎える」といふこと

平成三十年十一月十七日（土）に当院のやすらぎホールにて開催いたしました。

第十八回を迎える今回は、「老いを迎える」といふこと・老年精神医学の立場から」と題して、当院の診療部長で、老年精神医学が専門の小林敬先生にご講演をいただきました。

日本国内の百歳以上人口は七万人に迫り「人生百年の超高齢化社会」ともいわれます。いわゆる「老後」の時間もどんどん長くなりますが、加齢にともなう「老い」からは誰も逃れることができません。

老年精神医学では、認知症にとどまらず、加齢による身体疾患にともなう精神症状、老年期うつ病や夜間せん妄といった、「老い」に伴う精神的な変化を専門にしています。ご講演では、「老い」による生物学的な変化と社会活動の変化によって、どのような精神的变化・精神疾患が起きやすくなるのか、またそれに対する本人や周囲に求められる心構えなどについて、時には笑いも交えて非常にわかりやすくお話し頂きました。

今回も病院近隣にお住まいの方にご参加いただき、「温和な雰囲気でもとても良い講演」「老年期の特徴について良くわかりました」といったご感想を頂戴いたしました。

今後皆さまのご要望を取り入れながら日々の生活に役立つ講演にしていきたいと存じますので、多数のご来場・ご参加をお待ち致しますとともに、より一層のご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

実行委員長 加藤 正志

「ごさんフェスティバル」開催



今年も恒例のイベント「ごさんフェスティバル」を平成三十年八月四日（土）に開催した。例年と違い、立ち足はかかる二つの壁があった。ひとつは人員不足、もう一つは極暑であり、その対策も考慮する必要があった。主務を担当することは私にとって初めての試みであり不安と焦り、緊張感が入り交じった状態で準備を進めた。

「人員不足」は開催一週間前になると、各部署からスタッフが集まり、倉庫から物品運搬や買い物、舞台設定等を協力して行うことができ、円滑に準備が進んだことは驚愕した。また「極暑対策」では予算を見直して、ミスト扇風機や工場扇をレンタルし、屋外や受付に設置した。患者の飲食場所については理事長に相談しデイケアと生活支援センターの会場を使用させていただいた。この二つの壁が解決し、安心して夏祭りを行うことができた。

模擬店には、焼きそばやどんとん焼き、フラッペ、アイスクリーム、ジュースとお茶等、家族会はフランクフルトを出店し、どれも売れ行きが好調であった。ゲームコーナーではピンボールや射的、コイン落とし、ヨーヨー吊り等があり、患者や来賓者、スタッフが共に楽しむことができた。

またメインイベントでは「サンタの会」がみんなが知っている懐かしい曲を歌って、和やかな時間を過ごすことができた。最後の「お楽しみ抽選会」では、商品を目の前にして若者が当選することに胸を膨らませている姿が印象的だった。今年度のフェスティバルは不安なことが多々あったが、円滑に進むことができ無事終了することができた。協力して頂いたスタッフの方々に感謝している。

来年度も伝統のある「ごさんフェスティバル」をスタッフが一致団結して盛り上げていきたい。

実行委員長 廣瀬 義明

芸術作品がずらり やすらぎホール作品展示会

第九回「やすらぎホール作品展示会」が、平成三十一年三月十一日（月）から十六日（土）の六日間に渡り、当院やすらぎホールで開催されました。出展者は百十二名で総出展作品数はなんと百六十六点の作品、六日間の来場者数は二百五十三名と沢山の方々にご鑑賞していただきました。入院中や通院中の患者さまの作業療法の作品として、バッグ、敷マット、刺繍、編物が出展されました。

また、デイケアメンバーの書き初め、俳句、ぬりえ、切り絵、イラスト、写真の出展に加え、職員からも出展がありバラエティに飛んだ数多くの努力作品が所狭しと並びました。

ユニークな着想と、圧倒的な集中力が投影された作品には大変驚かされました。

アンケートにも、「一所懸命作られていて素晴らしい」「作者の心の中が手に取るように分かった」「明るい雰囲気やスタッフへのねぎらいの言葉もあり、とても嬉しく感じました。今後も大勢の方に見てもらえる展示会になるように取り組んでいきたいと思えます。

実行委員長 佐伯 浩子



防火訓練



平成三十一年三月四日に防火訓練を行いました。今回の訓練は、夜間勤務時間帯に31病棟デイルームから出火したという想定でした。参加職員は、周りの職員に緊張感が伝わるほど真剣に訓練に取り組んでいました。また、訓練後に行った反省会においても活発な意見交換が行われ、有意義な訓練を行うことができました。

火災における死亡原因は、炎や熱で全身が焼けるというよりも、煙が運ぶ炎や熱によって気道や肺が火傷をすることにより、窒息死しているケースのほか、煙に含まれる有毒ガスを吸引し、酸欠などにより窒息死するケースが多いと聞きました。つまり焼死よりも、窒息死が圧倒的に多いそうです。

火災を未然に防ぐのは当然ですが、火災が起った場合の迅速な対応が命を守ることに繋がります。有事の際には迅速な対応ができるよう、しっかりとした訓練を行っていくと思えます。

防火管理者 浦西 将之

研鑽に努めています

毎月の定例研修会の他にも、タイムリーな話題で、日々研鑽に努めて参ります。



不審者への対応について
富山西警察署



接遇の一步は
アングーマネジメントから
中村 清美先生



女性のライフサイクルと健康
種部恭子先生



リレー紹介 谷野呉山病院 コ・メディカル課 公認心理師

最近のホットな話題は、私たち心理職に国家資格が出来たことです。昨年、第一回目の試験に全員無事に合格し、晴れて公認心理師資格を取得しました。公認心理師は「一人々の心の健康の保持・増進に寄与する」資格と明記されました。これまでも民間資格の臨床心理士として職務を遂行してきましたが、今以上に心理学の知識と技術が役に立てるよう、日々研鑽したいと考えています。

私たちの主な仕事は、谷野呉山病院および谷野医院で、心理検査やカウンセリング、心理教育等の心理面接、集団療法です。家庭、学校、会社などでの不都合、不適応な状態や困りごとを抱える方々に、少しでも気づきを得、困難を乗り越える力をつけていただけるよう力添えになれたらと思っています。

これからもよろしくお願いたします。
公認心理師
谷口 園子



メンタルヘルスコミュニティセンター講演会

「思春期の性について考える」



谷野医院のメンタルヘルスコミュニティセンターの主催で、平成三十年十一月二十二日（木）十五時半～十七時の間、谷野医院三階のダイケアセンターにおいて、「思春期の性について考える」というテーマで、種部 恭子先生の講演会を開催しました。

種部先生は、産婦人科医であり、女性クリニックWeI TOYAMAの院長です。また、「内閣府男女共同参画会議 女性に対する暴力に関する専門調査会」の委員でもあります。中学校や高校から依頼を受けて、思春期の性教育のために、数多くの講演をしておられる先生です。当院でも、多くの思春期の患者さまが受診され、治療を受けておられます。思春期の性の問題に直面することも多く、対応に苦慮することがあります。こういった背景の中、同じように思春期の性の問題に直面しておられるだろう中学や高校の先生方にも呼びかけを行い、このような講演会を開催する運びとなりました。

当日は、急な呼びかけにも関わらず、十六名の学校の先生方に参加頂きました。職員を合わせ計三十七名の参加となりました。

講演会では、産婦人科医として多くの若者を診てこられた経験から、性のトラブル（望まない妊娠や性感染症、性暴力やDV、ストーカー被害など）について、また、そこから発生する問題について「こころ」からだ「生き方」の健康を取り戻すためにできることについてお話しいただきました。

日本の若者の性について、今、何が問題になっているのか、その実態を学びたいへん良い機会となりました。

谷野医院 高嶋 郁子

ようこそ！ ふれあい陶芸工房へ！



和敬会生活支援センターでは地域交流を目的として「ふれあい陶芸教室」を毎月第二木曜日の午後からと第四火曜日の午前中の計二回開催しています。

毎回、ダイケアやワークハウス連帯通所者の方、地域の方が参加され、お二人のアドバイザーさんの指導のもと、湯飲みやお茶碗、花瓶やお皿、季節やイベントにちなんだ作品など、さまざまな陶芸作品を創作しています。生活支援センターの交流室にも飾らせていただいています。



参加者の中には出来上がった作品をやすらぎホールの作品展示に出品し入賞された方もおられ、「自分が作った作品が多くの人に見てもらえるのが嬉しい」との感想をいただいています。

初めての方でも、アドバイザーさんが丁寧に教えてくださいますので安心してご参加いただけます。見学や体験も大歓迎です。興味のある方はぜひ、生活支援センタースタッフにお尋ねください。皆様のご参加をお待ちしております。

法人の動き

月	日	事項
7	2	東海北陸厚生局指定通院医療機関 一般指導監査
8	4	ごさんフェスティバル
8	31	認知症疾患医療センター研修会
9	7	防火訓練
9	9	職員旅行 第1班
9	12	職員総会
9	23	職員旅行 第2班
11	2	富山市保健所医療監視
11	3	職員旅行 第3班
11	17	こころの健康を考える講演会
11	30	県健康課実施審査・実施指導
12	12	職員総会
12	28	創立記念式典・忘年会
2	13	生活保護法による指定医療機関個別指導
2	24	第38回院内学会
3	4	防火訓練
3	11	やすらぎホール作品展示会
3	13	職員総会
4	1	臨時職員総会
4	11	職員花見 新人歓迎会

表彰

厚生労働大臣表彰

宮部真弥子（脳と心の総合健康センター 精神保健福祉士）
公益社団法人日本精神保健福祉連盟会長表彰

杉浦 泰子（メンタルケア病棟 准看護師）

富山県精神保健福祉大会長表彰

川口 晴美（メンタルケア病棟 看護補助者）

中洞 千里（経理課 事務員）

小中まゆみ（メンタルケア病棟 看護師）

柴田 祐子（コ・メディカル課 公認心理師）

島田 雄介（栄養課 調理師）

竹部 昌晃（31病棟 看護補助者）

永年勤続表彰

・三十年勤続

高嶋 郁子（谷野医院 精神保健福祉士）

・二十年勤続

扇割 毅（放射線課 放射線技師）

山本 浩二（薬剤部 薬剤師）

指田 友子（コ・メディカル課 作業療法士）

柳瀬由希子（谷野医院 事務員）

・十五年勤続

柴田 祐子（コ・メディカル課 公認心理師）

島田 雄介（栄養課 調理師）

竹部 昌晃（31病棟 看護補助者）

小中まゆみ（メンタルケア病棟 看護師）

榎尾 智浩（31病棟 看護補助者）

長谷川美喜子（検査 臨床検査技師）

・十年勤続

小橋菜見子（クライシスケア病棟 看護師）

伏木 一恵（谷野医院 精神保健福祉士）

山本 妙子（谷野医院 薬剤師）

大利 正子（31病棟 准看護師）

森 藍美（医事課 事務員）

木村 梓（クライシスケア病棟 看護師）

大井 敦子（栄養課 調理師）

業務改善運動優秀賞

谷野医院 訪問看護室
リハビリテーション部 作業療法部門

第三十八回院内学会 優秀論文賞

大島 美保（デイケアのぞみ 管理栄養士）

谷口 園子（コ・メディカル課 公認心理師）

資格取得

公認心理師

梶尾 都（総曲輪デイケアセンター）

谷口 園子（コ・メディカル課）

米本 智美（コ・メディカル課）

柴田 祐子（コ・メディカル課）

看護師

中山 哲（32病棟）

嶋 翔平（クライシスケア病棟）

准看護師

三村虎弥汰（クライシスケア病棟）

菊地 雅子（ストレスケア病棟）

中村 依子（31病棟）

川村 良輔（32病棟）

精神保健福祉士

塚口有里絵（ワークハウス連帯）

紙面に掲載されている患者様の写真につきましては、掲載に際して、ご本人または保護者のご了承を頂いております。

編集後記

朝乃山関が当院に慰問に訪ねてくれました。梅ヶ谷や太刀山のような地元横綱を目指して頑張れ！応援しています！

【樹】